

2016年度 SIP-adus 施策概要

施策名

交通事故死傷者低減の国家目標達成に向けた調査・検討における交通事故死傷者低減効果見積もり解析手法に係る調査検討

担当組織

公益財団法人 交通事故総合分析センター

研究代表者名 木内 透

プロジェクトの目標、背景

2014年度施策において規定した交通事故パターン分類の集計及び分析を行い、交通事故の発生傾向を把握し、自動走行システムに関する要素技術の交通事故死者数低減効果の推計に資することを目標とする。
なお、本施策は、2014年度から着手しており、2016年度は、3年目となる。

プロジェクトの概要

(1) 交通事故データの集計・分析

2014年度施策にて規定した255種類の交通事故パターンに基づき、警察庁から提供を受けた2015年の交通事故データを使って、死者数、死傷者数の集計を行い、パターンシートと詳細分析シートを整備した。

(2) 3年間の新旧パターン分析

2014年に規定した255パターン(2013年の交通事故データによる)のなかで、2014年、2015年の交通事故データで、死者3人未満となったパターンと新たな死者4人以上のパターンを把握した。この結果から、当面は255パターンの定点観測を継続することを推奨した。

(3) 特定事象の分析

2013年から2015年の事故パターンシート、パターン分析シートを活用し、次の分析を実施した。

・人対四輪事故

新たな死者4人以上のパターンは、高齢歩行者が右から横断するパターンが多い。

・二輪単独事故

二輪単独事故が微増している傾向は、中高年ライダーによるものである。

・自転車対四輪事故

自転車対四輪事故で、死亡者の多い事故パターンは、出会い頭と追突であり、致死率の高い事故パターンは、追突である。

今後の課題

次年度も継続して、2016年交通事故データに基づいた、パターン集計及び詳細分析シートの整備を行う必要がある(継続的な定点観測)。
また、特定事象の分析については、システム実用化WGとのより一層の連携が望まれる。